

## 甲府市の事務・事業における【2019（R1）年度】温室効果ガス排出状況について

甲府市が行う事務・事業に伴って発生する二酸化炭素などの排出量を抑制するため、「甲府市地球温暖化対策実行計画（事務事業編）」を策定しました。本計画では、本市の温室効果ガス排出量の状況や、省エネルギーへの取り組み等を踏まえ、「公共施設」と「公用車」について原単位目標を2016（H28）年度から設定し、2013（H25）年度を基準年度として2030（R12）年度までに毎年1%ずつ削減（基準年度比15%削減）することを目指しています。

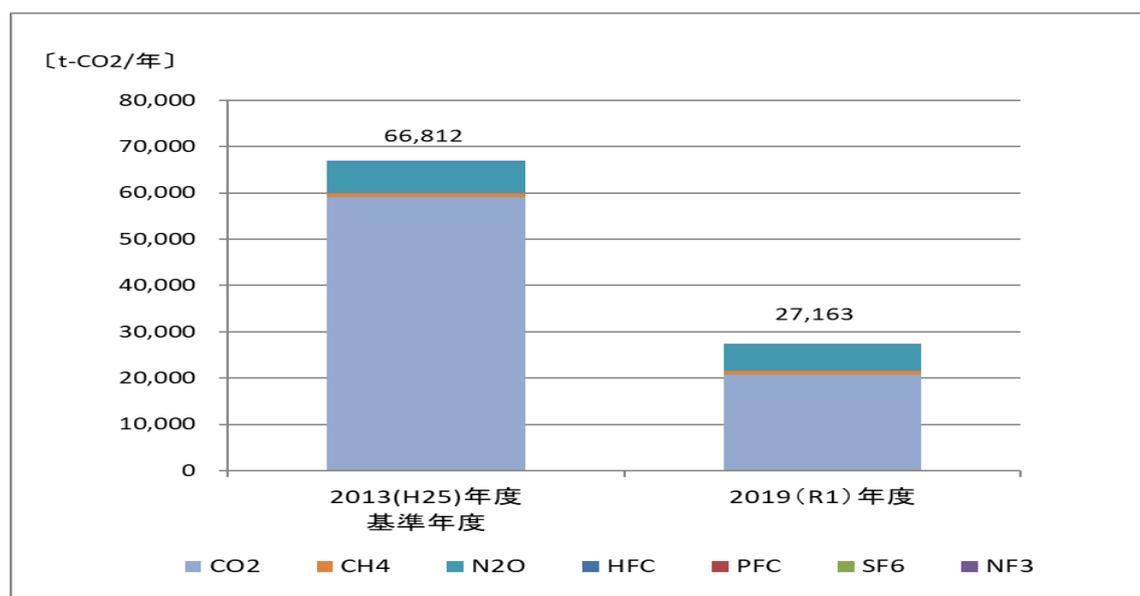
これに基づき、2019（R1）年度に関する本市事務事業における温室効果ガスの排出状況と、同年度の「公共施設」及び「公用車」に係る排出状況を公表します。

### ■温室効果ガスの排出状況

（1）総排出量及びガス種類別排出量（単位：t-CO<sub>2</sub>/年）

ガス種類	2013(H25)年度 基準年度		2019(R1)年度	
	排出量	比率	排出量	比率
二酸化炭素(CO <sub>2</sub> )	59,081	88.4%	20,674	76.1%
メタン(CH <sub>4</sub> )	923	1.4%	912	3.4%
一酸化二窒素(N <sub>2</sub> O)	6,803	10.2%	5,573	20.5%
ハイドロフルオロカーボン(HFC)	4	0.006%	4	0.01%
パーフルオロカーボン(PFC)	0	0.0%	0	0.0%
六フッ化硫黄(SF <sub>6</sub> )	0	0.0%	0	0.0%
三フッ化窒素(NF <sub>3</sub> )	0	0.0%	0	0.0%
合計	66,812	—	27,163	—
対基準年度比	—	—	△59.3%	—

※四捨五入のため、合計値が合わない場合があります。



○総排出量は、甲府市が行っている全ての事務事業（本庁舎、上下水道局、環境センター、小中学校、病院、公民館、公用車など）に伴い排出されるCO<sub>2</sub>等の温室効果ガスの総量をいいます。ただし、一部事務組合や広域事務組合を除きます。2019（R1）は基準年度に比べ59.3%減少しています。

(2) 活動種類別排出量 (単位: t-CO<sub>2</sub>/年)

活動種類	2013(H25)年度 基準年度		2019(R1)年度	
	排出量	比率	排出量	比率
燃料の燃焼	3,378	5.1%	3,022	11.1%
他人から供給された電気の使用	21,990	32.9%	17,652	65.0%
一般廃棄物の焼却	35,251	52.8%	0	0.0%
産業廃棄物の焼却	3,408	5.1%	3,702	13.6%
ディーゼル機関における燃料の使用	3	0.004%	2	0.008%
ガス機関またはガソリン機関における燃料の使用	78	0.117%	70	0.258%
自動車の走行	10	0.015%	10	0.036%
下水又はし尿の処理	2,691	4.0%	2,682	9.9%
麻酔剤(笑気ガス)の使用	0	0.000%	18	0.066%
自動車数(エアコンディショナー)	4	0.006%	4	0.015%
合計	66,812	—	27,163	—

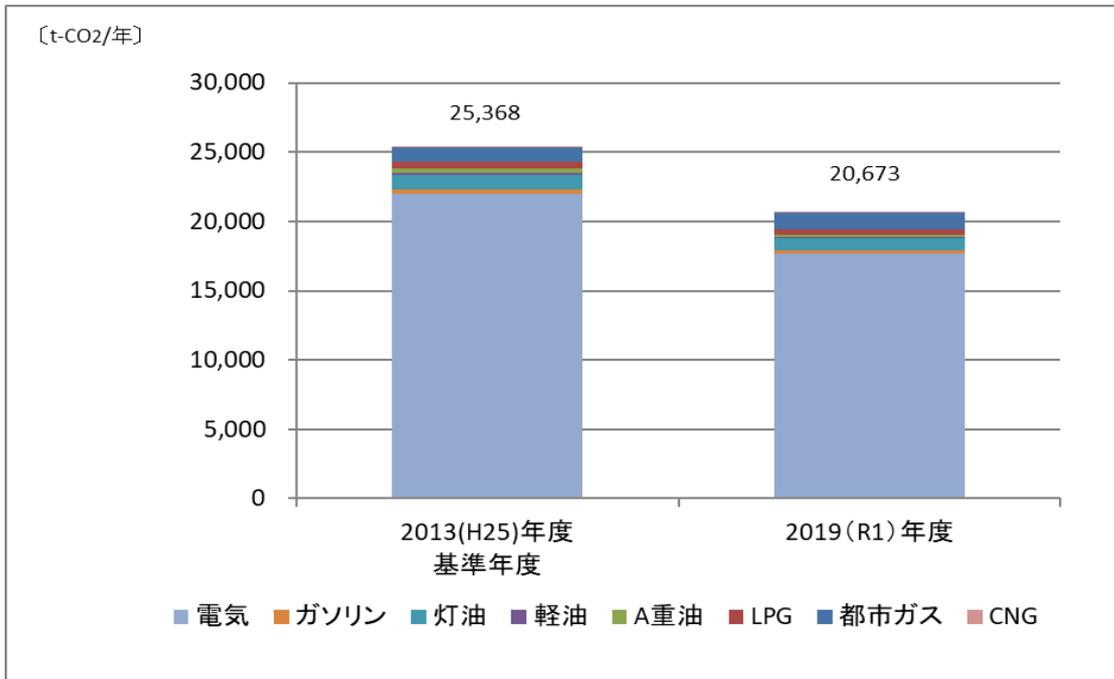
※四捨五入のため、合計値が合わない場合があります。

○活動種類別排出量では、主に「産業廃棄物の焼却」が基準年度に比べ増加しています。また、「他人から供給された電気の使用」は基準年度に比べ減少し、2016(H28)年度末の甲府市環境センター焼却工場の閉鎖に伴い、「一般廃棄物の焼却」による排出量はありません。

(3) エネルギー起源二酸化炭素排出量 (単位: t-CO<sub>2</sub>/年)

エネルギー種類	2013(H25)年度 基準年度		2019(R1)年度	
	排出量	比率	排出量	比率
電気	21,990	86.7%	17,652	85.4%
ガソリン	328	1.3%	307	1.4%
灯油	1,068	4.2%	800	3.9%
軽油	152	0.6%	117	0.6%
A重油	289	1.1%	138	0.7%
LPG	455	1.8%	385	1.8%
都市ガス	1,074	4.2%	1,273	6.1%
CNG	12	0.05%	1	0.01%
合計(エネルギー起源 CO <sub>2</sub> 排出量)	25,368	—	20,675	—
(再掲)温室効果ガス排出量	66,812	—	27,163	—
エネルギー起源 CO <sub>2</sub> の排出比率	38.0%	—	76.1%	—

※四捨五入のため、合計値が合わない場合があります。



○エネルギー起源二酸化炭素排出量は、(2)活動種類別排出量のうち「燃料の燃焼」及び「他人から供給された電気の使用」の合計値にあたります。

○電気やガソリン等による温室効果ガスの排出量は基準年度に比べて減少しており、節電やエコドライブ等、本市の省エネルギー対策等の効果が現われていると考えられます。今後も引き続き効果拡大を図るため、様々な取組の強化を図っていきます。

## ■「公共施設」及び「公用車」に係る排出状況

### 【計画の目的と削減目標】

本市の事務・事業における温室効果ガスの排出抑制や環境負荷の低減を図るため、率先的に省エネルギーに取り組み、温室効果ガス削減を推進することとし、目標設定の対象を「公共施設の延べ床面積1㎡当たり」と「公用車1台当たり」とし、2030（R12）年度までに1%ずつ削減することを目標としています。

また、2019（R1）年度の温室効果ガス排出量原単位（公共施設/公用車）をつぎのとおり公表します。

#### （1）温室効果ガス排出量（公共施設/公用車）（単位：t-CO2/年）

区分	活動種類	2013(H25)年度 基準年度		2019(R1)年度		対基準年度差
		個別	分類別 合計	個別	分類別 合計	分類別
公共施設	他人から供給された電気の使用	21,990	24,992	17,652	20,375	△4,617
	ディーゼル機関における燃料の使用	3		2		
	ガス機関またはガソリン機関における燃料の使用	78		70		
	麻酔剤(笑気ガス)の使用	0		18		
	燃料の燃焼	2,921		2,633		
公用車	公用車以外	2,921	470	2,633	402	△68
	公用車	457		389		
	自動車の走行	10		10		
	自動車数(エアコンディショナー)	4		4		

※四捨五入のため、合計値が合わない場合があります。

※活動種類別排出量の一部を再掲しています。

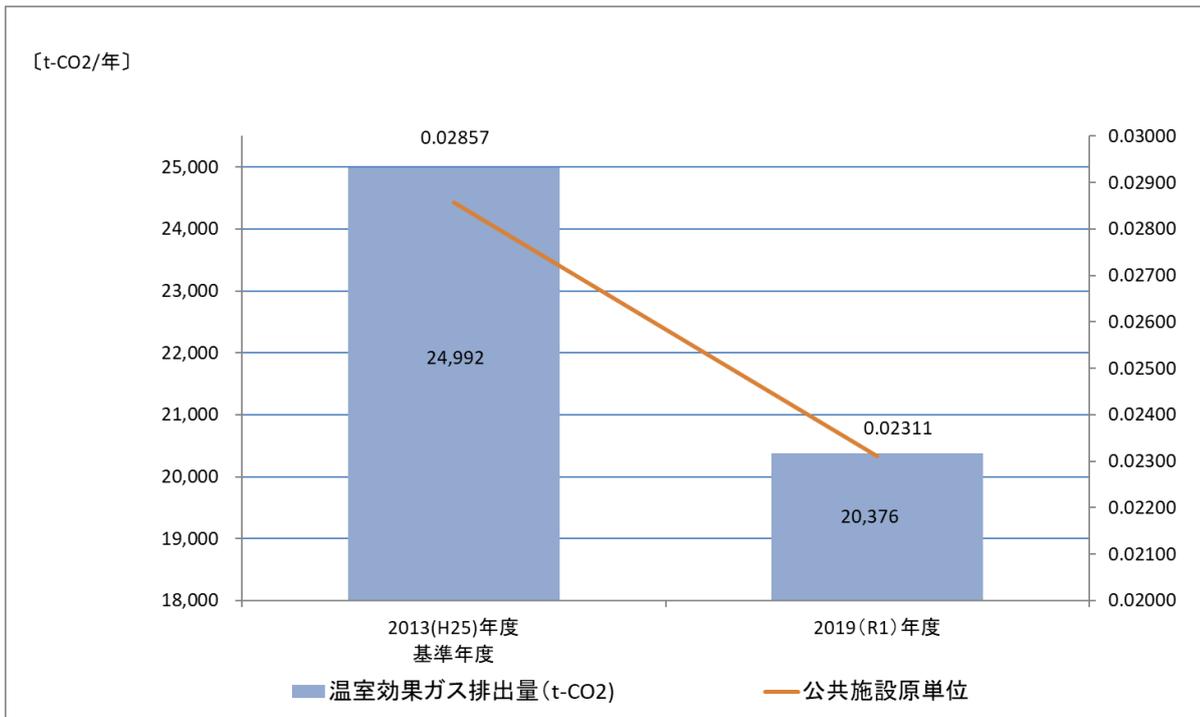
○公共施設・公用車の温室効果ガス排出量は、2019（R1）年度は基準年度に比べ減少しています。

#### （2）温室効果ガス排出量削減原単位（単位：t-CO2/年）

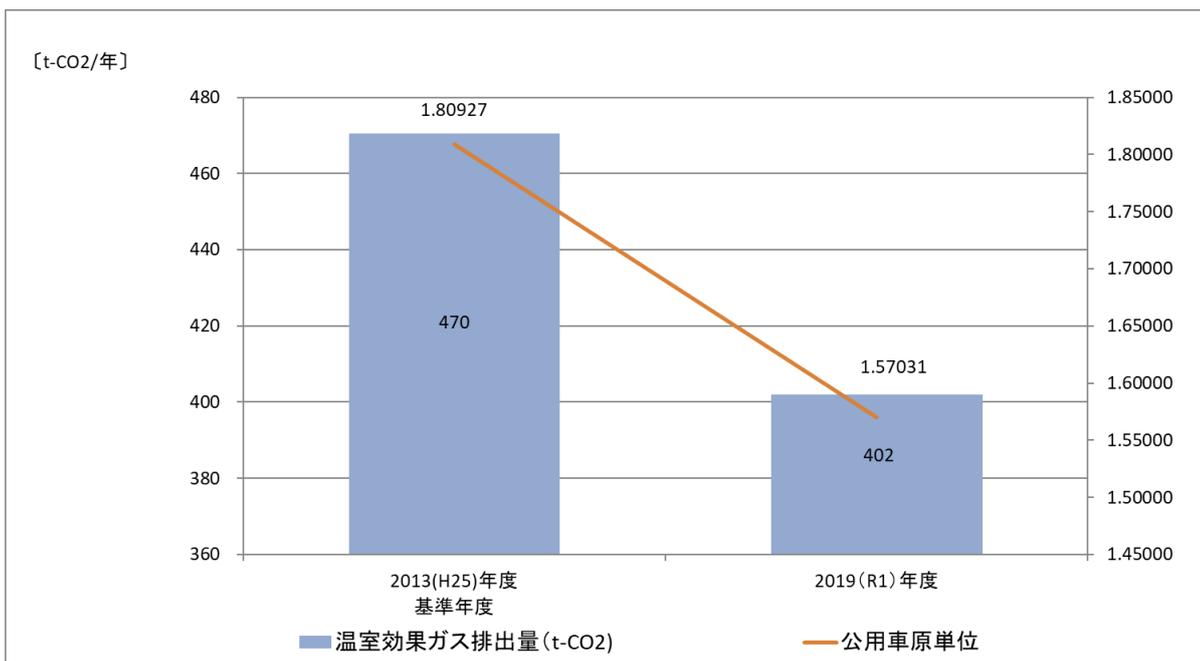
区 分		2013(H25)年度 基準年度	2019(R1)年度
公共施設	温室効果ガス排出量	24,992	20,375
	延床面積(㎡)	874,762	881,577
	原単位(t-CO2/㎡)	0.02857	0.02311
	基準年度比		△19.1%
公用車	温室効果ガス排出量	470	402
	車両台数(台)	260	256
	原単位(t-CO2/台)	1.80927	1.57031
	基準年度比		△13.2%

※四捨五入のため、合計値が合わない場合があります。

## 【公共施設】



## 【公用車】



○原単位とは、「温室効果ガス排出量」を「建物の延床面積」や「車の台数」で割ったものです。

○公共施設・公用車とも、2019（R1）年度は基準年度に比べ減少しています。